

V 幼保小の連携について

平成29年3月に改訂（定）された「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（以下「幼稚園教育要領等」）及び「小学校学習指導要領」では、これまで以上に就学前教育・保育施設と小学校の連携、幼児教育から小学校教育への円滑な接続の重要性が示されました。

足立区では、教育大綱の策定や幼稚園教育要領等及び小学校学習指導要領の改訂（定）を踏まえ、乳幼児期の教育・保育の更なる充実や、幼児教育と小学校教育の接続の一層の強化を図るため、5歳児クラスと入学後4、5月くらいまでの子どもたちの円滑な接続のための「あだち幼保小接続期カリキュラム」を平成30年12月に作成しました。

これまで積み重ねてきた幼保小連携ブロック活動を深化させていくとともに、改訂（定）により共通して示された、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点を踏まえ、接続期カリキュラムを活用しながら連携の一層の充実を進めていきます。

1 交流、連携事業の推進

（1）保育者、教員の交流

- ① 保育者が小学校の授業を参観し、学習内容や就学後の子どもの育ちなどについて学ぶ。
- ② 教員が幼稚園、保育園、こども園などを参観し、幼児期の教育・保育内容や子どもの育ちなどについて学ぶ。
- ③ 交流研修などを実施し、互いの教育・保育内容の理解を深める。

（2）子どもの交流

- ① 幼児が体験給食や体験授業、学校探検（校庭や図書館の利用を含む）などを行う。
- ② 幼児が音楽会や学芸会などの学校行事を見学する。
- ③ 小学校「生活科」での連携、交流活動をする。
- ④ 幼稚園・保育園などで児童が幼児と触れ合って活動する。



ちょっと緊張して！！
5歳児の給食体験の様子

（3）学びのつながり

今回改訂された「小学校学習指導要領」では、低学年の各教科で、「幼稚園教育要領等」で示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連を考慮して指導することが必要であることが示されました。特に「生活科」はこれまでと同じように、幼児期における遊びを通した総合的な学びが、各教科の学びに円滑に移行し、自覚的な学びに向かっていくための中心としての位置づけにあります。今回示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼児期で完結するものではなく、小学校教育に結びついて初めて意味をもつものですから、生活科を中心に学びをつなげていくことが大切です。

2 幼保小連携ブロック会議の推進

足立区では、区内を13のブロックに分け、ブロックごとに小学校、幼稚園・保育園・こども園・認証保育所などの関係者が集う「幼保小連携ブロック会議」を開催して、幼児教育から小学校教育への滑らかな移行に向けた取り組みを進めています。

(1) 目的

幼児教育と小学校教育の相互理解を通じて子どもの発達と学びの連続性を保障する。

(2) 具体的な方法と内容

年間2回程度ブロック内の公私立幼稚園・保育園・こども園・認証保育所などの5歳児担任、小学校一年生の担任、園長、小学校長が集まり、子どもの姿や教育内容に関わる情報交換を通じて、相互理解を深めたり、課題解決や保育・教育の充実に向けての方策について話し合ったりして、幼児教育から小学校教育への滑らかな接続に向けて成果を挙げています。

この会議への積極的な参加や活動を通して、新たな幼保小の交流活動や「あだち幼保小接続期カリキュラム」の活用を促進するなど、就学前の「学びの芽」をしっかりと育て、小学校の学びに円滑に接続させるような取り組みとなることを目指しています。

3 幼稚園幼児指導要録・保育所児童保育要録・幼保連携型認定こども園園児指導要録・認定こども園こども要録の送付

幼児教育から小学校教育へ、子どもの育ちをつなげていくために、一人一人の子どもの育ちの状況を、決められた様式に基づいた書類として作成し、小学校へ送付する必要があります。それがそれぞれ以下のような名称の要録で、公簿です。

- ・ 幼稚園：「幼稚園幼児指導要録」
- ・ 保育所（園）：「保育所児童保育要録」
- ・ 幼保連携型認定こども園：「幼保連携型認定こども園園児指導要録」
- ・ 幼保連携型認定こども園以外の認定こども園：「認定こども園こども要録」

平成30年度末に各様式の内容が共通化されました。

入園した時、あるいは転入園した時などに作成され、在籍していることを証明するとともに、在籍期間の指導の記録が記載され、修了時には、小学校へその写しが送付されます。

この送付も幼保小連携においては重要で、形式的に送付すればよいというものではなく、そこに記載されている内容が、小学校入学後の指導の基盤として重視され、活用されることが必要です。そのためには、様式に記載しきれない事項等で必要と思われる内容については、別途丁寧に言葉を添えて、小学校へ情報提供することが大切です。